キャラクター名
日向マヤ

プレイヤー名

シンドローム	バロール エグザイル	ワークス	UGNエージェントC	カヴァー	教師
オプショナル		年齢	25	性別	女
覚醒	探求	衝動	自傷	初期侵食率	30 %
出自	安定した家庭	経験	多忙	邂逅	家族

	基本値	ワークス	ボーナス	成長	他修正	能力値
肉体	2	0	0			2
感覚	2	0	0			2
精神	2	1	0			3
社会	2	0	0			2

HP	27
行動値	7
(非装備時)	7
戦闘移動	12
全力移動	24

肉体			感覚			精神			社会		
技能	SL	修正	技能	SL	修正	技能	SL	修正	技能	SL	修正
白兵			射撃			ＲＣ	1		交渉		
回避			知覚			意志	1		調達	1	
運転：			芸術：			知識：	2		情報：UGN	1	
運転：			芸術：			知識：			情報：		
運転：			芸術：			知識：			情報：		
運転：			芸術：			知識：			情報：		
運転：			芸術：			知識：			情報：		

武器・コンボ	能力	命中値	G値	攻撃力	射程	メモ
クリスタルシールド	白兵	2r	12	-		超重い。

防具	価格	装甲	回避	行動	メモ

合計装甲：	0	合計回避：	0

所持品

ウェポンケース	

ロイス

対象	感情(pos)	感情(neg)	タイタス	消費
複製体	P	N		
義両親	P 幸福感	N 不安		
生徒	P 庇護	N 劣等感		
フェルナンド・フランコ	P 信頼	N 恐怖		
	P	N		
	P	N		
	P	N		

最大財産P: 6	残り財産P：

スキル名	SL	コスト	タイミング	射程	対象	判定	制限	メモ
ワーディング	★	-	オート	視界	シーン	自動	-	
効果：	非オーヴァードのエキストラ化							
リザレクト	0	1d10	気絶時	-	自身	自動	↓100	
効果：	コスト分のHPで復活							
グラビティガード	3	3	オート	至近	自身	自動	-	
効果：	自らのガード値を＋lvダイス							
時の棺	1	10	オート	視界	単体	自動	100	
効果：	判定失敗							
崩れずの群れ	1	2	オート	至近	自身	自動	-	
効果：	行動消費せずにカバー							
命のカーテン	3	4	オート	至近	自身	自動	-	
効果：	崩れずの群れを10m延長							
黄金錬成	3	-	常時	至近	自身	自動	-	
効果：	浸食率基本値＋3、30pt							
虚無の城壁	3	2	セット	至近	自身	自動	-	
効果：	ガード値＋(lv×3)							
孤独の魔眼	1	4	オート	視界	-	自動	-	
効果：	「対象：範囲」を自分変更							
帝王の時間	★	-	メジャー	至近	自身	自動	-	
効果：	自分の時間をゆっくりにする							
ディメンジョンゲート	★	3	メジャー	至近	-	自動	-	
効果：	どこでもドア							
十徳指	★	-	メジャー	至近	自身	自動	-	
効果：	指先マルチツール※専門知識は無							
効果：								
効果：								
効果：								

真面目で責任感が強い教師。そして、UGNエージェント。
オーヴァードとしての経歴は浅く2年ちょっとである。
尊敬する上司、霧谷雄吾の指令で、この春N市公立高校に赴任してきた。目的は潜入捜査、FHの工作を調べることである。
とはいえ、マヤにとって教師はUGNの仕事と同じぐらい大事な仕事だ。
どちらも手を抜くつもりはない。
コードネームはタロット12番吊るし人の"自己犠牲"から。

複製体として命を与えられたもののオーヴァードとしての発芽が見られず、組織的なんやかんやがあった末に一般家庭の一人娘として引き取られる。
当時外見年齢小学校低学年。
義両親もマヤ自身も、そういえば私たちって血が繋がっていたかったっけ？と時折思い出すぐらいで、平穏に過ごした十数年が嘘偽りない家族の絆を育てた。
家庭も友人も恵まれたマヤは青春を謳歌し、教師を目指す。

そこに社会の闇が立ち塞がる。
元来、責任感が強く真面目な気性のマヤは、赴任先の職場で早くも信頼を得る。「先生、相談したいんだけど」「日向さん、頼むわね」「君だったら任せられるよ」。気づけば、日中は教鞭をとり、放課後は部活の顧問、部活が終われば翌日の授業準備や学生の相談、親のクレーム処理、雑用。帰宅時間は終電が常になった。
全てやりがいがある。けれどしんどい。でも手は抜きたくない。だけど今のままではやがて限界が来る。
もっと、もっと、みんなの信頼に応える術はないか――ー。
残業で一人残る職員室で悩み塞ぎ、しばらく。終電が近いことを思い出してはっと時計を見る。
時計の針は全く動いていなかった。
――ー複製体の実験は成功していたのである。